

地域で見守り支える仕組み 地域包括ケアシステム

いつまでも、住み慣れた塩竈で暮らすために

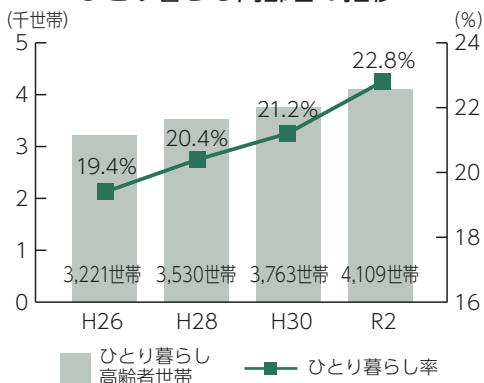
地域包括ケアシステムが
なぜ、必要なのか

住民の3人に1人が高齢者

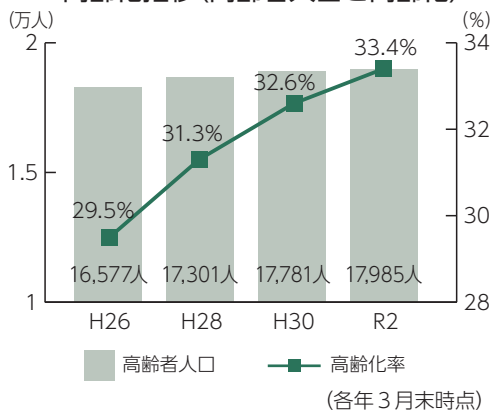
本市の高齢化率は、令和2年3月末時点で33.4%、3人に1人が高齢者です。特に、介護が必要な状態になりやすい75歳以上の人が、市内の高齢者人口に占める割合は、約52%で、徐々に増えています。

さらに、市内の在宅で一人暮らしをしている高齢者の世帯数は、令和2年3月末時点で4,109世帯です。これは、在宅で高齢者がいる世帯の22.8%を占め、今後増加する見込みです。

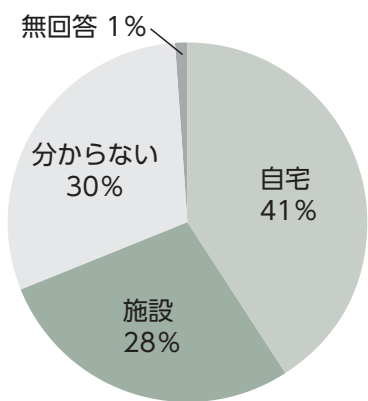
ひとり暮らし高齢者の推移



高齢化推移 (高齢者人口と高齢化)



介護が必要になった場合に希望する住まい



介護が必要になったとき、
地域での生活を思い描けない

令和2年2月に市が行った「介護が必要になった場合に希望する住まい」のアンケートの結果、自宅を希望する方が41%、施設などを希望する方が28%、分からないと答えた方が30%でした。

「いつまでも、住み慣れた地域で暮らしたい」。「地域包括ケアシステム」は、このような希望を実現させるために、住まい・介護予防・生活支援・医療・介護の各分野が、互いに切れ目なく支援を行う仕組みです。

地域包括ケアシステムを構成する各分野の取り組みの一部を紹介します。家族や自分自身が、医療や介護、そのほかの支援が必要になったら、どうしたらよいかを考えてみましょう。

自宅介護を受け、地域での生活を望む方がいる一方で、「分からない」と回答した方のように、介護が必要になったときに地域での生活を思い描けない方が多くいる状況が分かりました。

介護を必要とする本人や家族の思いを実現できるようにするために、また、今後、介護が必要になったときにどこで生活したいかを具体的に考えられるようにするために、地域包括ケアシステムという仕組みが必要です。

すでに、さまざまな分野で地域包括ケアシステムの取り組みが行われています。3ページでは、地域包括ケアシステムのイメージと、その取り組みの一部を紹介します。

地域で高齢者を支える 「地域包括ケアシステム」の取り組み

介護予防

- ・サークルや老人クラブでの活動、介護予防教室への参加など

(具体的な取り組み)

- ・介護予防教室などの充実
- ・ダンベルサークル、脳げんき教室の活動支援
- ・住民主体型の通所サービスの充実



地域のサークル活動

生活支援

- ・シルバー人材センターや町内会などによる生活支援サービス

(具体的な取り組み)

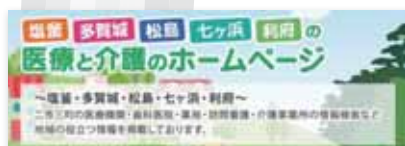
- ・要支援認定者などへの家事代行支援サービス「ちよこっとヘルプ」の実施
- ・生活支援サービスの担い手づくり



ちよこっとヘルプ

住まい

- ・自宅に住み続けるための工夫
- ・サービス付き高齢者向け住宅などの選択



医療介護連携の情報発信

医療

- ・かかりつけ医などの活用や在宅での医療、訪問看護など

(具体的な取り組み)

- ・塩釜医師会や医療機関との連携
- ・在宅医療に関する研修や講演会の開催
- ・医療、介護の専門職対象の話し合いの場、研修会の実施

介護

- ・通所系、訪問系、地域密着型サービスなどの在宅介護や、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設などの施設サービス

(具体的な取り組み)

- ・認知症施策や介護サービスの充実



認知症サポーター養成講座

地域包括支援センター

- ・高齢者やその家族の相談、対応など

「自分事」として、
地域づくりに取り組む

このように、地域包括ケアシステムは、市など行政だけではなく、介護・医療・福祉に携わる人、ボランティアやサークル活動、地域住民など、地域全体で高齢者の日常生活を支えていく仕組みです。

この仕組みを活用して生活するうえで大切なのは、本人の選択と家族の心構えです。住み慣れた地域で生活を続けたいという希望は、本人や家族が望まなければ実現することはありません。いつか、自分が支援を必要とする本人になったとき、その家族になったときに、住み慣れた地域で生活を続けたという思いを実現できるような地域づくりを、一緒に「自分事」として取り組んでみませんか。

☎ 長寿社会課地域支援係
364-11204